琵琶湖博物館 フィールドレポーター

# 掲 示 板

2022 年度 第 1 号 通巻 101 号 2022 年 10 月 1 日発行

長浜飛来のコウノトリ

## ご挨拶

今年度からフィールドレポーターの担当になりました学芸員の鈴木です。これまでに実施された様々な調査活動に関しては、今までは外から眺めている立場でしたが、今回からは本格的にかかわらせていただきます。皆さんと一緒に面白い、新たな発見ができることを楽しみにしています。

去年度は新型コロナウイルスのまん延にともない、予定されていた調査が行えませんでしたが、本年度は何とか実施にこぎつけそうです。2020 年度に行ったヌートリアの分布調査「え！？こんなところにもヌートリア」では、従来の方法に加え、新たな試みとして、web 上の入力フォームや地図を利用した、情報提供と随時の情報公開が行われました。こちらの方法でも多くの方から調査結果を送ってもらうことができましたので、今後の調査でも、継続して利用していきたいと考えています。

私はプランクトンの調査をしている都合、屋外調査に出る機会もあり、それなりに周囲の状況を観察しているつもりでした。しかし、改めて調査票を見てみると、うろ覚えなところが多く、「見て」いるだけで「観察」まではしていなかったんだなあと実感させられます。とはいえ、この「見て」いた記憶は、調査をする際の足掛かりとして、非常に重要になってきます。そして改めて「観察」することで、新たな発見ができるかもしれません。

調査の項目だけに限らず、自然も人工物も含めて、皆さんと一緒に新たな知見を深めていければ幸いです。

フィールドレポーター担当　鈴木隆仁

・・・　・・・・・　も　く　じ　・・・・・　・・・


| | | | |
|---|---|---|---|
| 巻頭 | FR 担当学芸員挨拶 | 鈴木学芸員 | P1 |
| 1 | フィールドレポーター活動の新展開 | 亀田副館長 | P2 |
| 2 | Web 掲示板を使ってみよう | 鈴木隆仁 | P3 |
| 3 | 2022 年度第 1 回フィールドレポーター交流会の報告 | 椛島昭紘 | P4 |
| 4 | ヌートリア調査時に皆様から届いた確認情報 | 中野敬二 | P6 |
| 5 | 守山市のシロバナタンポポ | 近江心気郎 | P8 |
| 6 | 2022 年「びわ博フェス」のご案内 | 編集部 | P10 |
| 7 | 活動報告・活動予定 | 編集部 | P11 |

## 1. フィールドレポーター活動の新展開

区切りの 101 号に寄せて

副館長　亀田佳代子

皆さんこんにちは。この４月から副館長となりました亀田です。フィールドレポーター掲示板 101 号の発行、おめでとうございます。もう 100 回以上の報告や情報の交流があったと思うと、年月の重さを感じます。開館直後、フィールドレポーター制度の立ち上げを担当したのが、博物館に採用されてすぐの私でした。「こういう制度を考えてきたから立ち上げてね」と先輩学芸員に言われ、なにもわからないままにスタートした制度でしたが、今もフィールドレポータースタッフとして活躍している方々に支えられ、なんとか務めることができたのを、今でも良く覚えています。

その頃から比べると、フィールドレポーター（FR）調査もずいぶんと発展、進化してきました。FR スタッフによる独自のテーマと調査手法の調査も増え、既存の専門分野を持つ学芸員とは異なるユニークな視点の調査も多くなっています。また、長く続けていることで、以前実施した調査を数年後に再度行うことができていて、何種類かの生物については経年変化を追えているのが、とても面白いなと思っています。またぜひ、これからもこうした調査を続けていって欲しいなと思っています。

最近は、スマホと SNS によって、いつでもどこでもだれでもフィールドの情報を記録したり発信したりできるようになり、それを活用した調査も国内外でたくさん見られるようになりました。FR でも、web フォームを使った調査回答や、Slack の活用も導入されましたね。これによって、調査や情報交流が発展するといいなと思います。ただ一方で、アナログを使い慣れた方々が取り残されなければいいなとも思います。だれにでも参加しやすい、FR ならではの活動が、これからも続けていけるといいなと思います。

節目の 101 号としてこれからの新展開を考えると、FR 調査で集めた地域の情報を、レポーターや博物館内だけでなく、もっと広く紹介していけるとよいなと思います。琵琶湖や滋賀県、その周りの地域の面白さは、実際に現場で体験、体感することで伝えられると思います。ぜひ、フィールドの魅力をこれからも積極的に発信していただけたらと思います。今後とも、地域の面白い発見を期待しています。

烏丸半島より比良山を望む　2021.11.25 編集部撮影

# 2. フィールドレポーター
# Web 掲示板を使ってみよう

2022/07/17　鈴木隆仁

チームコミュニケーションアプリ「Slack」を利用して web から
フィールドレポーター掲示板へ投稿出来るようになりました。

フィールドレポーターの皆さまからの投稿をお待ちしております。

**注意**

〇個人情報の類いは、書き込まないようにしましょう。

写真の GSP 情報はオフにしましょう。

〇掲示板上での口論は禁止です

議論は OK。

ケンカ腰になったり
煽ったりしない。

Web 掲示板の利用法

① スマートフォンで利用する場合はアプリストアから「Slack」アプリをインストールする
※アプリそのものは無料です。PC で利用する場合はアプリなしでも大丈夫です。

② フィールドレポーター担当[freporter@biwahaku.jp]へ下記の情報を揃えて参加申込みメールを送る。

- 本名
- 掲示板上で利用する名前（本名と違っても OK）
- web 掲示板で利用するメールアドレス

③ フィールドレポーター担当が情報を確認し、登録作業を行う。
※数日かかることがあります

④ フィールドレポーター担当から招待 url がメールで届くので url をクリック
招待 urlh は、こんな感じです

http://www.〇〇。××

⑤ 開いた画面で申込時の「掲示板上で使う名前」とパスワードを設定して完了。

⑥ 「チャンネル」に「フィールドレポーターweb 掲示板」があるので、選択して書き込んでみよう。

## 3. 2022 年度第 1 回フィールドレポーター交流会の報告

フィールドレポータースタッフ　椛島昭紘

新年度第 1 回の交流会はフィールドレポーターが年に一度琵琶湖博物館に集まって、前年度の調査結果と新年度の調査内容を報告し、その内容を基に調査に参加しての感想や意見を交換して交流を深める会として、年度初めに開催してきました。しかし新型コロナの感染拡大の影響で中止になり、前回の 2019 年 5 月開催から 3 年ぶりの年度初の交流会でした。

2022 年 7 月 17 日（日）、感染対策をしながら開館している博物館のセミナー室で、13 時 30 分～16 時半ごろまで、20 名の参加で開催しました。参加者の内訳は、フィールドレポーター11 名、はしかけ 2 名、学芸員 5 名、その他 2 名でした。報告したテーマは 4 件です。報告内容の概要紹介および交流会の様子を報告します。

開会挨拶は担当の楊平専門学芸員から頂きました。「3 年ぶりの開催です、新型コロナ禍でなかなか交流ができませんでしたが、今日は楽しく交流いたしましょう。」

最初の報告は 2019 年度 2 回目調査の「近江の食調査」です、担当したスタッフの山崎千晶さんからの報告です。調査の参加者 165 名から回答を得ました。そして残したい料理の上位 3 つは鮒ずし、エビ豆、でっち羊羹。残したい食材の上位 3 つは近江牛、近江米、赤こんにゃくでした。

いずれも、滋賀県ではよく知られた料理、食材であり、アンケートでも「おいしい」「有名である」といったコメントが見られました。

コメントは楊平専門学芸員が担当されました。参加された方の一人一人に直接質問されて、皆さんがそれぞれご自身の食材や料理の事についての思いを話して下さって、良い交流ができと思いました。

2 件目は 2020 年度 2 回目調査の「え？こんなところにもヌートリア調査結果」です。担当したスタッフの中野敬二さんの報告です。調査期間は 2021 年 2 月～5 月 16 日です。調査の参加者は 65 名で内訳はフィールドレポーター26 名、Net39 名で、報告件数は 180 件でした。調査地点は琵琶湖大橋から瀬田唐橋間に多く、全県にわたって調べられました。見つかった報告が多かったのは大津市、草津市、守山市、野洲市、近江八幡市で、調査件数が多かった割に見つからなかったのは高島市でした。見つかるのは主に県の南部の琵琶湖に近い岸辺や川や水路が多く、泳いでいたり、何かを食べている様子が目撃されていました。

コメントは金尾滋史主任学芸員が担当されました。ヌートリアは周辺府県では古くから記録がありますが、意外にも滋賀県内で初めて確認されたのは 2000 年のこと。2010 年代に入り、県内南部中心に目撃情報などが急激に増加したことから調査を実施しました。これま

でのフィールドレポーター調査は郵送による調査票の返送が主体でしたが、今回は Google form を併用してオンラインでも募集しました。この効果でフィールドレポーター以外からもリアルタイムに情報が得られました。今後の調査に有効かもしれない。

３件目は 2022 年度１回目調査の「ヒガンバナ調査」の説明です。調査を担当するスタッフの前田雅子さんに報告して頂きました。ヒガンバナの名前は秋の彼岸頃に花が咲くことに由来します。曼珠沙華（まんじゅしゃげ）とも呼ばれ、人里近くの田畑、道ばた、堤防などに生育する多年草です。調査１はヒガンバナの開花時期とどこに咲いているかの調査です。琵琶湖博物館では 1995 年に開花日を調べる参加型調査をしました。花期の移り変わりを観察して県内の開花日を捉えなおしたいと思います。調査２はヒガンバナが嫌われものか？です。花に対するイメージをお聞きします。ヒガンバナには３倍体種、２倍体種の他に多数の園芸品種があります。花後に種ができるものもあります、皆さんの機動力と観察眼で新発見を手繰り寄せてください。

４件目は「Slack の使用方法講習」です。担当は鈴木隆仁主任学芸員です。チームコミュニケーションアプリ Slack を利用した、フィールドレポーターWeb 掲示板の説明です。掲示板の投稿が Web でできるようになります。Slack を使って投稿するまでの流れを資料で説明して頂きました。パソコンやスマホで参加できます。掲示板はすでに投稿可能な状態になっており、フィールドレポーター担当に登録手続きのためのメールを送ってもらうことで参加できます。

閉会の挨拶は今年度のフィールドレポーター担当鈴木隆仁主任学芸員にして頂きました。

交流会は熱心な報告と参加された皆さんとの質疑応答を通して有意義な交流ができました。ご参加の皆さんありがとうございました、これからもフィールドレポーターの活動を盛り上げていただきますようにお願い申し上げます。

交流会の様子（テーマの報告）

会場写真：椛島撮影、 鮒寿司、ヌートリア（金尾学芸員）、 ヒガンバナ：中野

## 4.　ヌートリア調査時に皆様から届いた確認情報

フィールドレポータースタッフ　　中野敬二

調査期間中に寄せられた情報は１８０件。今回の取り組みのポイントであった Web 報告が全体の 91％であったことを報告します。詳細は「フィールドレポーターだより」に委ねますが、一部先行の御紹介です。

頻繁に観察されたのは、湖東地区が多く、近江八幡から瀬田までの湖岸に集中しています。

湖西は堅田付近から湖南の湖岸の調査が目立ちます。

「観察出来た」「見つかった」報告 68 件の中の一部を、地域が重ならないように紹介します。

| 観察日 | 地域名 | 詳しい場所 | 場所の環境 | コメント<br>＜見た個体数＞ |
|---|---|---|---|---|
| 2020/12/20 | 栗東市中沢 | 葉山川<br>薗神社前 | 川や水路 | 泳いでいた、食べ物を食べていた　＜3＞ |
| 2021/4/9 | 守山市洲本町 | 湖岸緑地<br>法竜寺川 | 琵琶湖 | 陸上で何か（草？）を食べていた様子。　＜1＞ |
| 2021/3/26 | 彦根市 | 彦根城外堀 | 城の堀 | 陸上でじっとしていた<br>＜1＞ |
| 2021/4/27 | 草津市新浜 | 狼川 | 川や水路 | 泳いでいた。川の中で顔をを出していた。　＜1＞ |
| 2021/4/11 | 近江八幡市 | 白鳥川 | 川安井路 | 川を泳いで草むらの方に上って行った。　＜1＞ |
| 2021/5/13 | 米原市高溝 | 琵琶田川<br>国道高溝 | 川や水路 | 泳いでいた。　＜1＞ |
| 2020/10/3 | 近江八幡市 | 多賀町 | 川や水路 | 川や水路泳いでいた。食べ物を食べていた＜3＞ |
| 2021/4/24 | 草津市新浜町 | イオンモール草津横 | 川や水路 | 泳いでいた。食べ物を食べていた。　＜1＞ |
| 2014/4/28 | 米原市朝妻筑摩 | 筑摩神社<br>入江橋 | 水路付近の路 | 路上遺体　＜1＞ |
| 2021/2/20 | 大津市比叡辻 | 新大宮川沿いの畑 | 川や水路 | |
| 2021/1/5 | 大津市南小松 | 近江舞子<br>内湖 | | 毛繕い<br>カワウに警戒　＜1＞ |
| 2021/3/21 | 大津市雄琴 | 雄琴川 | 河川内 | モゾモゾ動いていた<br>＜1＞ |
| 2021/4/24 | 高島市安曇川町 | エカイ沼 | 沼 | 親子泳いでいた<br>（子 2～3 匹）＜4＞ |

写真：前田美幸さん

写真：小原彩穂さん

投稿写真ご紹介

## ◎ 観察出来た、出来なかったの極端例　◎

琵琶湖大橋東詰から、さざなみ街道外側の琵琶湖岸は目撃情報の多い場所です。目撃報告２件は多分同一カ所と思えます。

わずか 50～200m離れた場所で観察出来ないのは、よほど条件が悪かったか、ヌートリアの行動に人間側がタイミングを合わせられなかっただけでしょう。

**[観察期間以前の記憶報告]**

その１

- ○　守山市　みさき自然公園
- ○　2020/2/25　　[
- ○　駐車場
  マリオットホテルの向かいの川（池）
- ○　泳いでいた，水から上がって毛繕いをしていた

**[観察期間以前の記憶報告]**

その２

- ○　守山市　さざ波街道
- ○　2019/1/23
- ○　マリオットホテルの向かいがわの水路
- ○　みずにはいったまま岸際でじっとしていた

国土地理院地図
一部加稿

守山市今浜町の水路の同じ場所

撮影中野＜右、左＞

# 5.　守山市のシロバナタンポポ事情

近江心気郎

2015 年タンポポ一斉調査の段階では、白花タンポポは主たる観察テーマではなかった。

その後、市街地における数々の観察報告やキビシロタンポポの情報も多くなり、白花種のまとめ報告も常在化してきた。今後さらに調査、報告が増えると考えられる。

キビシロタンポポだけの一斉観察の機会はまだ無い。個人的には未だ遭遇出来ておらず、ずっと見たいと思っているのにチャンスに恵まれていない。

2018 年守山市での別途調査時、たまたま農家の庭でそれらしき株を見つけたが、一般白花であった。同時期、別場所でも白花の観察をし、守山市のシロバナタンポポは案外多いとの感触があり、調査対象地域として実行の機会を探っていた。

今年（2022 年）４月のはじめに、地元の方から「最近のタンポポは白みの強いものが増えていますか？」といった質問を受けた。概ね黄色だが全体が白っぽいらしい。「クリーム色ですか」の問いには「よくわからない」との答え。場所は、市内、杉江町の辺り、十二里町界隈、並びに立命館守山高校付近という。キビシロタンポポとの初対面の期待が大いに膨らんだ。早速情報地に赴いたものの、残念ながら結果は通常の白花種であった。

十二里町の桜並木と根元に咲く白花

桜並木の根元、木々間約 300mにポツポツであるが咲く実態はすごいと思えた。株の存在する区間の長さは記録といっていいだろう。

道路沿いであるが、川沿いであることも気になった（観察地点は守山川）。

予てより、白花の河川付近の分布が結構多いような気がしていたからでもある。市街地を通る川であるが近年までは自然のままの環境があったはずである。

過去、掲示板レポート（２００２年）で守山５丁目の目田川や隣接する下之郷町のレポートが存在しており、重点的調査の必要性を確信する。

今までの調査では道路路肩や法面などで観察することが多かったが、思い切って川の土手内中心に歩いてみるとかなり連続して咲いている姿に遭遇した。

上流目田川に入り、市立図書館横に至ると一気に花株が増え出し、土手一面シロバナばかりの光景となった。一瞬守山市の意図的栽培カ所と思ってしまった。

その後、日を置かず数日かけて観察したのが図の地域である。

観察領域は狭いが、地図上の距離で 4000m以上になった。株の密集しているところも多く場所によっては黄花より白花の割合が多い地点もあった。

目田川、金ヶ森川、今宿川、守山川で計 11 カ所観察し、花頭、種のサンプルは西日本タンポポ一斉調査の様式に準じた報告書を作成し琵琶湖博物館に提出した。

地図：国土地理院地図に加稿　　写真：中野

感心もしたが、不思議と思ったのが守山市立図書館横、目田川北土手の群集域である。

土手上の遊歩道は桜が満開で土手斜面はシロバナタンポポが満開。黄花タンポポはほとんど無し。

市民憩いの空間に位置しており、意図して栽培しているかの風情である。もしそうであれば面白いが、生態系の撹乱に繋がりになりはせんかと心配もした。

実態は自然繁殖と思うが、地元では知る人ぞ知るで、あまり話題にならないのかもしれない。

目田川５号橋、６号橋間の 500m間の両土手がいっぱいのシロバナである。　誰かが話題にしてニュースになっても良さそうだが、たんぽぽ程度では話題性が薄いのか。

今自分が、白花、白花と追いかけているから目についただけで、普通の人の目には“しろつめぐさ”が咲いている程度の感覚かもしれない。

白花は咲き時期が早いので４月 15 日最終観察時には咲き終わり、種ばかりになっていた。

白花の後には、黄花タンポポが取って代わり、黄色一色の場面を想像していたが、土手に黄色はなかった。桜も散り土手は薄緑が段々と濃い緑に変わっていく途中であった。

市立図書館横、目田川北土手

# 6.　2022 年「びわ博フェス」のご案内

３年ぶりのびわ博フェスが開催決定し、フィールドレポーターも参加することになりました。
琵琶湖博物館今年のテーマは

**【びわ博フェス 2022　～　一緒に楽しく発見】**　です。

全体の日程

2022 年 10 月 22 日（土）13：00～17：00　「地域・びわ博」シンポジウム

2022 年 10 月 23 日（日）10：00～17：00　　ポスター発表、ワークショップ

この趣旨に乗っ取りフィールドレポーターらしい内容で参加します。
全部のテーマに参画します。フィールドレポーターに振り分けられた時間は以下の通りです

## シンポジウム

【シンポジウムタイトル】「地域・びわ博」シンポジウム「一緒に楽しく発見したのは？」
【会場】滋賀県立琵琶湖博物館・ホール

10 月 22 日（土）発表者と時間は以下の通りです。

| | |
|---|---|
| 講演時間<br>13：40～14：10 | 発表：前田　雅子（フィールドレポーター） |

## ポスター展示

【日程】2022 年 10 月 22（土）～23 日（日）10：00～17：00
【会場】：琵琶湖博物館・アトリウム

フィールドレポーターに割り当てられたポスター開設時間

10 月 23 日　11：30～12：00

| | |
|---|---|
| 展示ポスター | ① フィールドレポーターってなぁに？<br>② えっ！？こんなところにもヌートリア |

## ワークショップ

【日程】2022 年 10 月 23 日（日）　13：00～14：45（途中 15 分休憩）
【会場】：琵琶湖博物館・会議室

| | | |
|---|---|---|
| 「万華鏡を作ってみよう」 | 時間割<br>13：00～13：45<br>14：00～14：45 | 二部制<br>45 分で交代<br>１０歳以下保護者同伴 |

材料は全部準備しますので手ぶらで来て下さい。
製作作品は、お持ち帰りです。

# 7.　活動報告・予定

## 2022 年度の活動報告

| 月 | 日 | 内　容 | 参加者 | 主な議題・活動 |
|---|---|---|---|---|
| ４月 | 16 日（土） | 交流室 | ７名 | ①　掲示板 100 号発行　②Slack の進め方<br>③　年間調査テーマ検討（ヒガンバナ、他） |
| ５月 | 21 日（土） | 交流室 | ６名 | ①　2021 年度活動報告のあり方について<br>②　2022 年度交流会実施要項 |
| ６月 | ４日（土） | 交流室 | ３名 | ①　2022 年度調査内容の検討<br>②　交流会内容の検討・確認 |
| | 18 日（土） | 交流室 | ６名 | ①　交流会案内状発送・交流会進行検討<br>②　2022 年調査“ヒガンバナ”学習検討 |
| ７月 | ２日（土） | 交流室 | ５名 | ①　ヒガンバナは咲いていますか？調査準備 |
| | 16 日（土） | 交流室 | ６名 | ①交流会準備、交流会進行検討<br>②発表資料類、最終作成と修正作業 |
| | 17 日（日） | セミナー室 | 20 名 | 2022 年度フィールドレポーター交流会<br>・食調査報告　・ヌートリア調査報告<br>・ヒガンバナ調査の説明 |
| | 30 日（土） | 交流室 | ５名 | “ヒガンバナは咲いていますか？”調査票発送 |
| ８月 | 20 日（土） | 交流室 | ５名 | ①掲示板 101 号内容最終検討<br>②情報誌「びわはく」投稿内容検討 |
| ９月 | 10 日（土） | 交流室 | ６名 | ①とんぼ観察予定<br>②びわ博フェスの内容、準備日程検討<br>③掲示板 101 号内容検討 |
| | 25 日（日） | 交流室 | ７名 | ①びわ博フェス：万華鏡作りの進め方検討<br>②びわ博フェス：ポスター展示内容確認<br>③ヒガンバナ調査の進捗確認<br>④掲示板 101 号内容の最終検討 |

## 2022 年度　2022 年 10 月～12 月の活動予定

| 日　時 | | 内　容 | 場　所 |
|---|---|---|---|
| 10 月 | 1 日（土）　13：30～16：30 | 定例会 | 交流室 |
| | 15 日（土）　13：00 現地集合 | とんぼ調査 | 伊香立融神社 |
| | 22 日（土）　13：50～14：10 | びわ博フェス<br>シンポジウム | 琵琶湖博物館ホール |
| | 23 日（日）　13：00～15：00 | ワークショップ | 会議室 |
| 11 月 | 5 日（土）　13：30～16：30 | 定例会 | 交流室 |
| | 19 日（土）　13：30～16：30 | 定例会 | 交流室 |
| 12 月 | 3 日（土）　13：30～16：30 | 定例会 | 交流室 |
| | 17 日（土）　13：30～16：30 | 定例会 | 交流室 |

定例会は原則として、第１、第３土曜日の 13：30～16：30 に琵琶湖博物館の交流室で行なっています。どなたでも参加できますので、どうぞお気軽にお越しください。見学も大歓迎です。

なお、予定が変更になる場合があります。詳細は、琵琶湖博物館フィールドレポーター係（Email：freporter@biwahaku.jp）までお問い合わせください。

### 編集後記

滋賀県立
琵琶湖博物館
〒525-0001　滋賀県草津市下物町 1091
TEL: 077-568-4811 FAX: 077-568-4850
E-mail: freporter@biwahaku.jp

世間一般のデジタル化、オンライン方式が定着し、掲示板の投稿集約にもその影響と効果が徐々に出てきているようです。

現在登録のレポーターメンバーには、紙面報告に慣れ親しんだ期間が長く、オンラインに全部切り替えるのはチョット、という方が多いのが実態です。しかし、どんな場面にもうまく溶け込み、時代の波に適応出来る能力をしっかり持ち、実力発揮出来るのがフィールドレポーターの持ち味です。メンバー皆さんの力量を信じています。

交流会も開催できるようになりました。2022 年度の活動内容も「ヒガンバナは咲いていますか？」と決まり、全員に通知を済ませ、結果を楽しみにしている段階です。

秋の「びわ博フェス」も開催されることが決定し、フィールドレポーターもシンポジウムとショップに参加します。3 年ぶりの開催ですから、スタッフ一同気合いを入れて頑張ります。レポーターさんも、ご家族、お友達をお誘いの上 10 月 22，23 日の両日は是非博物館に足を運んでいただきたいと思います。

正常な日常が戻りつつあります。遅れ遅れの 101 号も刊行出来ました。活動のリズムを早くコロナ前の状況に戻るようスタッフ一同頑張ります。

お待たせしました。さあ皆さんの出番がどんどん増えます。大いに自己アピールをしてください。必ず活動の活性化に繋がりますので、後押しを宜しくお願い致します。（編集担当・中野）